

平成27年度 学校評価表

八代白百合学園高等学校

学校教育目標	<p>校訓を自分のものにしよう</p> <ul style="list-style-type: none">○ 従 順<ul style="list-style-type: none">①良心の声に素直に従おうとしています。②人の話を謙虚に聴くことができます。③社会の正しい決まりを守ることができます。④周囲に流されることなく、よりよいものに向かっていきます。⑤善に反することは断る勇氣を持っています。⑥自分の役割を責任を持って果たします。⑦物質的な豊かさの中にあっても、ぜいたくに流されないよう心がけています。○ 勤 勉<ul style="list-style-type: none">①自分の能力をみがき、可能性の実現に努力します。②学習の習慣が身についています。③創造するよろこびを知っています。④将来の目標をもち、その実現に向けて努力します。⑤人のいやがる仕事や、目立たない仕事をいといません。⑥人とのかわりを大切にして、前向きに努力します。⑦失敗にくじけず挑戦します。⑧健康的な生活習慣が身についています。⑨生涯を通じて自己を高めようとしています。○ 愛 徳<ul style="list-style-type: none">①自分と同じように他人を大切にします。②自分の過ちを認め、謝ることができます。③他人の過ちをゆるそうと努めます。④自然で美しい言葉遣いや礼儀作法が身についています。⑤女性としての特性を人々のために活かそうとしています。⑥感謝、思いやりなどを言葉や行動で表わすことができます。⑦人の喜びや悲しみに共感する心が育ち、相手の立場に立って考え行動することができます。⑧人のため、社会のために何ができるかを考え、行動することができます。
今年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none">・特別進学コースの充実 (国公立大への合格者数の増加)・基礎学力向上に粘り強く取り組む・部活動の活性化 (それぞれの目標を明確にして、その達成に取り組む)・特別支援教育の充実 (建学の精神を基盤にした、特別支援教育・共生教育の充実)

自己評価総括表

評価項目		評価の観点・目標	具体的な方策	評価	成果と課題
大項目	小項目				
学校経営	特色ある学校づくり	建学の精神の実践	<ul style="list-style-type: none"> 校訓への理解度を深める教育を推進 修養会等独自の行事への保護者の参加を呼びかける 	B	今年度学校教育目標にも掲げ様々な場面で実践することが出来た。保護者にも理解を深めてもらうべく案内を積極的に行ったが、参加人数等をさらに増加させる方策を検討する。
		姉妹校との連携	<ul style="list-style-type: none"> 修学旅行時に白百合女子大学への訪問を行い同じ建学の精神に学ぶ理解を深める 各姉妹校へのビデオレターでの交流 各姉妹校間の直接交流を図る 	A	大学訪問や、姉妹校交流等で生徒にも全国にある白百合学園が共通の建学の精神のもとに学んでいるという理解が深まってきている。また、剣道部が盛岡白百合学園と交流が出来た。部活動等については遠征等の際に積極的に交流を行いたい。
		コースの特色を生かした教育活動の展開	<ul style="list-style-type: none"> 特進コースにおける課外の充実と強化推進 	B	小テスト形式による課外に取り組むことで個人の理解度を詳細にチェックすることが出来た。さらに理解度に応じた対策を個々に行う。
	開かれた学校づくり	情報の公開	<ul style="list-style-type: none"> 学校HPの更新・充実を図る 広報誌「八代白百合学園だより」での適切な情報発信 	B	HP上での学校行事等情報掲載については充実してきているが、部活動については更新頻度を上げるようにする。また入試書類の一部HP上での配付についても検討を行う。
		保護者との連携	<ul style="list-style-type: none"> 保護者会総会、定例会の充実を図る 	A	学校メール配信を採用し、積極的な情報発信に努めた。また、保護者の意見を参考にキャリア教育講演を行ったが、保護者の参加しやすい日時等の調査方法等についても検討し、積極的な参加を促したい。
			<ul style="list-style-type: none"> 保護者への情報発信 		
	同窓会、後援会や地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> 12校園連絡会で地域学校との情報交換を積極的に行う 情報発信の充実 地域行事への同窓会との取り組み強化 	A	八代の伝統行事である妙見祭に同窓会と学校で参加し、ユネスコ文化遺産登録へ向けて学園を挙げて地域へ貢献することが出来た。今後は生徒・教職員の参加数を増やすようにする。また生徒による地域の小学校への学習指導を行うことが出来た。	

学力向上	基礎学力の向上	学びなおしの実践	<ul style="list-style-type: none"> 教材を有効活用し基礎学力の定着を図る 	B	<p>受験対策としての課外に関して抜本的な見直しを行い、より効果的に取組むことが出来た。学び直しについては個々のレベルに応じた指導方法について検討する。</p> <p>事前に渡した問題の中から小テストを行うことで自学の習慣をつけ、その日のうちにやり直しと類題を解くことで力をつけることが出来た。</p> <p>学力向上だけではなく学校生活（部活動、行事等）へのより積極的な参加への指導体制を検討する。</p>
	授業の質の向上	授業の充実および課外の実施	<ul style="list-style-type: none"> 教員の各種研修での研鑽を推進する 課外授業の見直し 	A	
	学習習慣の確立	家庭学習の充実	<ul style="list-style-type: none"> 繰り返し学習による学力の定着 	A	
	クラス編成	特別進学クラス対応	<ul style="list-style-type: none"> 進路希望に応じたクラス編成を行う 	B	
キャリア教育の推進	進路目標実現	インターンシップの活性化	<ul style="list-style-type: none"> インターンシップ参加者について2学年標準コース全員の参加を図る 協力企業の増加を図る 	A	2学年の標準コース全体で実施し、協力企業数についても生徒の希望も反映させながら増加することが出来た。協力企業からも良い評価を得ることが出来た。この結果を企業に伝えることで協力企業の増加を図り、来年度以降はさらに進学コースでも取組めるようにしたい。
		進路情報提供の強化	<ul style="list-style-type: none"> 進路ガイダンスの実施 大学模擬授業の実施 進路講演会の実施 面談の充実 	B	白百合女子大学の協力により、模擬授業を行った。1・2学年においては進路学習会を実施し、進路についての目標意識を持たせることが出来た。さらに個人面談を充実させることで個々の進路目標についてのきめ細やかな指導を図る。
生徒指導	生活指導	制服の正しい着用	<ul style="list-style-type: none"> 整容指導を徹底する 	A	<p>外部講師を招き携帯電話の安全教室を実施した。DV未然防止教育にも取組むことができた。通学時の交通安全を図るため学校周辺の通学路を定め交通安全指導を重点的に行った。今後も保護者や地域住民の意見を聞きながら充実させたい。</p> <p>単なる規範意識の向上だけでなく、精神性・道徳性の向上を目指す。</p>
		携帯電話の正しい利用	<ul style="list-style-type: none"> 消費者教育やマナー講座を通じて携帯電話の使用についての理解を深める 	A	
		交通安全教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> 通学時の街頭指導を行う 交通安全指導での自転車交通講習 	B	
		DV未然防止教育	<ul style="list-style-type: none"> DV未然防止教室の開催 	A	
		建学の精神に基づいた生徒指導の取組強化	<ul style="list-style-type: none"> 宗教教育、人間教育の観点から生徒指導を行う 	B	

生徒指導	ボランティア活動の推進	奉仕活動への理解を深める 心豊かな生徒の育成	<ul style="list-style-type: none"> ボランティア活動への積極参加を促す 各種支援施設との交流 校内献金活動を通して他者への慈愛の精神の醸成を図る 	B	支援学校との交流を行うことで、ボランティアや共生についてその意義を学ぶことが出来た。より多くの生徒が参加できるよう活動できる場を増やすために、地域の奉仕団体等関係各所との連携を図り活動の拡大を図る。
	特別支援教育	特別支援体制の強化	<ul style="list-style-type: none"> スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの有効活用及び関係機関との連携強化 個別の教育指導・支援計画やの策定 ケース会議の充実 	A	スクールカウンセラー、ソーシャルワーカーと連携し、不登校生への家庭訪問や別室登校の生徒への対応充実に努めた。また、専門職員を配置し、特別支援コーディネーターや管理職との連携を密に行った。教員間の連携とケース会議等の充実を図る。
人権教育の推進	人権意識の向上	人権感覚の育成	<ul style="list-style-type: none"> 人権問題についての正しい理解を深める 人権講演の実施 	A	戦争体験者の体験談を聞くことで平和、人権について理解を深める機会を設ける
	いじめ防止	未然防止・早期発見	<ul style="list-style-type: none"> いじめ防止基本方針の策定 個人面談の実施 いじめ実態把握調査の実施 	A	面談等を行い生徒実態の把握に努め、教員間の連携により未然防止に努める。
特別活動	国際交流の推進	韓国姉妹校との交流 その他の国際交流	<ul style="list-style-type: none"> 年2回の交流を展開する 「総合的な学習」での韓国語講座の実施 英語圏との学校との交流 	A	27年度は姉妹校締結10周年となる韓国のセントポール女子高等学校との交流事業を推進。12月には八代市の友好都市である中国・北海市への青少年文化交流派遣団に参加し、箏曲・華道・着物の着付等の日本文化を紹介した。オーストラリアのカトリック学校を迎え交流事業を推進し、ホームステイ及び本校開催のスプリングコンサートにおいてステージ交流、日本文化体験などを行った。今後もグローバルな視野を育成する教育を目指す。
	各種行事	宗教行事の充実	<ul style="list-style-type: none"> 修養会を行いカトリックの理念を通じた人格形成を目指す 本校の守護の聖人である聖パウロの殉教の祝日に行う「聖パウロ音楽祭」を同窓会、幼稚園も参加して学園全体で行う 	B	修養会における講師に対して、生徒が分かりやすい講話を特に依頼し、親しみやすい形でカトリックの理念を伝えることにより、人格の形成につなげるようにする。
	部活動	部活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"> 全国レベルの部活動への活動環境整備 文化系部活動合同でスプリングコンサートを開催し地域へ向けた活動発表を行う 	A	体育系部活動に関しては、地域の小中学生とも活動できる機会を設けた。文科系部活動に関しても地域の小学校への芸術鑑賞会を行い共に地域貢献の活動が出来た。環境整備だけでなくこうした活動を充実させることで生徒たちの心身の成長も図る。